

三瓶山北の原で採集されたミズラモグラ

大畑 純 二*

A Japanese mountain mole (*Euroscaptor mizura*) was collected from Kitanohara plateau of Mt.Sambe in Ohda city, Shimane prefecture.

Junji Oohata

1. はじめに

島根県においてミズラモグラ (*Euroscaptor mizura*) の生息が確認されたのは、2000年に国立公園三瓶山の北の原 (標高約580 m) で拾われたキツネ (*Vulpes vulpes*) の糞中からキツネに捕食され噛み砕かれた骨が見つかったのが最初である (大畑, 2003)。それ以後、今回採集されるまで島根県内でミズラモグラは採集されていなかった。

2012年8月4日、自然観察のため三瓶山を訪れた小学生の中本勇大君によって小型のモグラが拾われ、三瓶自然館に提供された。これが県内における2例目の採集個体で、完全な姿をした個体の採集例としてはこれが初めてである。

以下、今回採集されたミズラモグラについて報告する。

2. 採集個体の種同定

- (1) 採集年月日：2012年8月4日
- (2) 採集場所：三瓶山北の原姫逃池南側 (山側) の草原…標高約580 m
- (3) 採集者：中本勇大 (小学生 = 大田市山村留学センター短期留学生)
- (4) 種の同定者：大畑純二 (同定年月日：2012年8月8日)
- (5) 採集品の状態：外見的には全く無傷の状態だったが、炎天続きの毎日だったため乾燥が進んでおり吻部は幅細くなっていた。届けられた採集品はすぐ冷凍保存されたが、既に内蔵から腐敗

が進行しており、外部計測を行うため解凍して曲がっている体を伸ばした際に腹部が横に裂けてしまった。

(6) 計測値

- ①外部計測値 (乾燥していたため、若干小さめの値になっている可能性がある)

頭胴長=80 mm

尾長=20 mm

尾率(%)=25%

体重=18.8 g (乾燥気味のため実際より軽量化)

前足長 (爪なし) =12.9 mm, 前足長 (爪あり) =17.45 mm, 前足幅=12.5 mm

後足長 (爪なし) =12.0 mm, 後足長 (爪あり) =16.5 mm

②頭骨の計測値

頭骨全長=26.6 mm, 脳筐幅=12.6 mm, 吻幅=3.4 mm

頬弓部幅=9.4 mm

基底全長=26.0 mm, 基底長=22.3 mm

頬歯列長=10.4 mm, 上歯列長=11.5 mm

下顎長=17.2 mm, 下顎歯列長=10.04 mm

- (7) 歯式：I/ i=3/3, C/c=1/1, P/p=4/4, M/m=3/3 (Mogera 属の歯式は I/ i=3/2, C/c=1/1, P/p=4/4, M/m=3/3である。)

*Euroscaptor*属の下顎門歯はMogera属より1本多いので、今回採集された個体はミズラモグラであることが確認された。

3. 外観的特徴

- ①体の大きさ：ヒミズくらいの大きさ。

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8, Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

- ②体背面の毛色：黒色味の強い焦茶色（コモグラに似るが一層焦げ茶色が強い）で、光線の照射具合によっては灰色味を帯びて見える。
- ③体下面の毛色：全体的に灰褐色・前腕部は灰色（ごく僅かに焦茶色を帯びる）
- ④吻部側面の毛色：灰白色（吻部側面は、鼻鏡後端部分から白色毛におおわれる）
顕微鏡観察により、褐色毛の色は、外皮部分「淡褐色」を帯び毛髄には黒色素が含まれていることによって焦げ茶色に見える。また、毛の先端部分が無色透明であることで灰色がかって見えることがわかった。灰色毛は、外皮部分が無色透明で、毛髄の黒色素が小さく、毛の先端の無色透明の部分が多い。
- ⑤吻裸出部の形：フジミズラ (*E. m. mizura*) とヒワミズラ (*E. m. hiwaensis*) の中間的な特徴を持つように思われる。
- ⑥尾の毛色：黒色（数本の白色毛を混じる）・尾の皮膚の色＝黒色（ヒミズに類似）
一般的に図鑑等の絵や写真で見るミズラモグラの尾の皮膚の色は肌色、尾の毛は白色であるが、三瓶山で今回得られた個体の尾は皮膚・体毛ともに黒色である。
- ⑦前足の形状：モグラ型
- ⑧後足の形状：各指間に水かき状の皮膚膜がある。

4. 標本化

採集された資料（ミズラモグラ）は、フラットスキン標本と骨格標本にして保存した。資料は死後かなり時間が経過しており皮膚等の乾燥化と内臓の腐敗が始まっていたため、外部計測中に腹部が裂けてしまった。資料は計測後すぐに剥皮したが、毛皮が破れた状態のフラットスキン標本にしか作製できなかった。骨格標本の方は、ほぼ完全な標本作製できた。

なお、この標本は鳥根県立三瓶自然館に収蔵されている。

5. ヒワミズラモグラ *Euroscaptor mizura hiwaensis* との比較

三瓶山産ミズラモグラと最も近い地域に分布しているのは広島県北部に産するミズラモグラであり、ヒワミズラモグラ (*E. m. hiwaensis*) という亜種に分類されることもある。三瓶山産の計測値を、広島県の比和及び芸北（臥龍山）産のヒワミズラモグラと比較し

てみた。

以下に掲げてある三瓶山産aは2012年8月4日の採集個体、三瓶山産bは2000年4月18日の採集個体であり、また、比和産aは今泉（1960）、比和産bは今泉（1970）、臥龍山産は上野他（1996）から引用した計測値である。

計測部位/産地	三瓶山産 a	三瓶山産 b	比和産a (type)	比和産b	臥龍山産
頭胴長	80	-	92.0	89.4	90
尾長	20	-	25.0	22.6	22
前足長 (爪なし)	13.9	-	11.8	-	11.2
前足長 (爪あり)	17.45	-	16.0	-	-
前足幅	12.5	-	11.0	-	10
後足長 (爪なし)	12.0	-	13.5	14.0	12.5
後足長 (爪あり)	16.5	-	15.0	-	-
頭骨全長	26.6	-	26.5	26.4	-
脳筐幅	12.6	-	13.3	-	-
吻幅	3.4	3.4	3.1	3.1	-
類歯列長	10.4	9.55	9.6	-	-

比較個体があまりに少数のため地域的な形態差について一般化はできないが、上記の数値からは同一地域においても個体差がかなり大きいことがうかがえる。

今回、三瓶山で採集された個体は、比和産及び臥龍山産に比べて頭胴長と尾長が短い割に前足の長さと同幅がかなり大きい。また、頭骨では、頭骨全長に対する脳筐幅が小さく、吻幅と類歯列長が若干大きめである。

引用文献

- 今泉吉典（1960）原色日本哺乳類図鑑：37-57. 保育社。
- 今泉吉典（1970）日本哺乳動物図説、上巻：117-147. 新思淵社。
- 大畑純二（2003）鳥根県で初めて生息が確認されたコモグラとミズラモグラ。鳥根県立三瓶自然館研究報告、No.1:3-8.
- 上野吉雄・足利和英・保井浩・桑原一嗣（1996）広島県芸北町の哺乳類。高原の自然史、No.1:395-441.



① ミズラモグラ (*Euroscaptor mizura*) の背面 (背側に大きく反り返った状態)



② 同 腹面 (背側に大きく反り返った状態)



③ 同 吻部上面 (裸出部が狭い)



④ 同 尾上面 (皮膚と毛の色は黒色)



⑤ 同 左前足 (手の平)



⑥ 同 右後足 (足裏: 各指間に水かき状の膜が見られる)



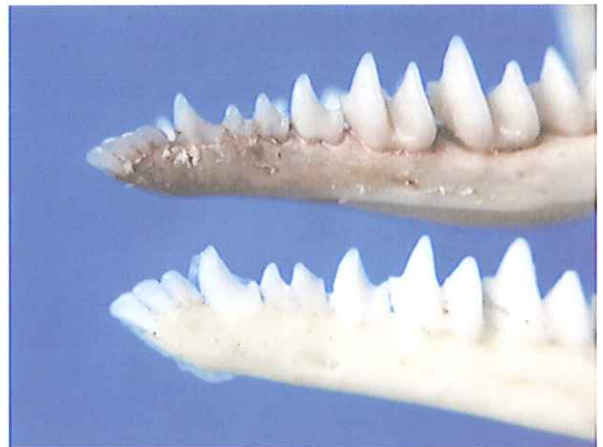
⑦ モグラ科剥製標本（ミズラモグラはフラットスキン標本だが、他は本剥製標本）：左からコウベモグラ (*Mogera wogura*)・コモグラ (*Mogera imaizumii*)・ミズラモグラ (*Euroscaptor mizura*)・ヒミズ (*Urotrichus talpoides*)



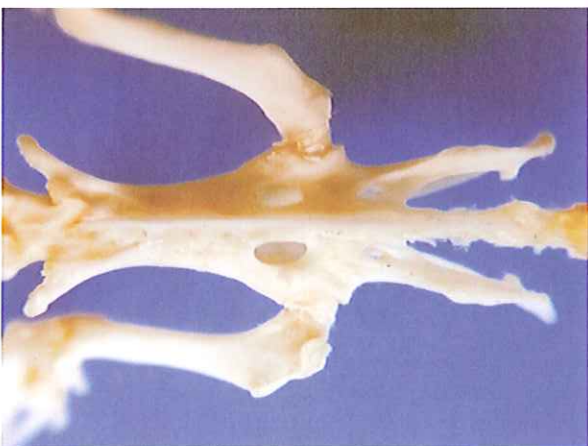
⑧ モグラ類の頭骨（背面）：左からコウベモグラ (*M. wogura*)・コモグラ (*M. imaizumii*)・ミズラモグラ・(*E. mizura*)



⑨ ミズラモグラ頭骨（左側面）



⑩ ミズラモグラ（上）とコモグラ（下）の下顎：*Euroscaptor* 属は *Mogera* 属より門歯が1本多い



⑪ ミズラモグラ骨盤（背面…右側が後方）